

まち歩きで大洲の魅力を発信

まち歩きを通して大洲の歴史や魅力を発信する観光ガイド「おおず歴史華回廊案内人倶楽部」の10周年記念式典が2月25日(水)、肱南地区の臥龍煉瓦倉庫で開かれました。式典には、市や観光関係者など約40人が出席し、これまでの歩みを振り返るとともに、今後のさらなる活動への決意を新たにしました。

代表の今峰優見子さんは「私たちの活動が、観光客の満足度向上につながる基盤になれていると感じる。これからも地域にとって必要不可欠な存在になれるよう努力していきたい」と今後の抱負を語りました。



ソロプチミスト大洲 軽トラックを寄贈

国際ソロプチミスト大洲の認証30周年記念事業として、大洲市社会福祉協議会へ軽トラックが贈られ、その寄贈式が2月25日(水)、大洲市総合福祉センターで行われました。式で、国際ソロプチミスト大洲の村上玲子会長は「福祉の向上につながればうれしい。災害時にも役立ててほしい」とあいさつし、社会福祉協議会の藤田修会長は「女性と子供の生活向上を目的とした奉仕活動に、いつもご尽力いただき大変感謝している。車両は有効に活用し、よりよい地域社会づくりに努めたい」と感謝の言葉を述べました。



市民の安心・安全を守る決意新たに 消防出初式

令和8年大洲市消防出初式が3月1日(日)、五郎大橋上流の河川敷グラウンドで開かれ、消防団本部および市内23分団の団員860人が出動しました。式では、服装点検や車両点検のほか、ポンプ車操法など日頃の訓練の成果が披露されました。愛媛帝京幼稚園の園児による防火アトラクションも披露され、式典に花を添えました。

また、長年の消防活動の功績をたたえる表彰も行われ、受章者を代表して大川分団の富永茂幸分団長が、関係者への感謝の意を表すとともに、消防使命の達成に向けて邁進する決意を語りました。



きりめき

ニュース

シリーズ

お知らせ

情報ひろば

図書館

未来を拓く

健康ナビ

相談・救急



豪雨災害を繰り返さないために

平成30年7月豪雨を受け、今後の内水対策のために整備される「都谷川排水機場」の起工式が、3月7日(土)に新谷地区の整備予定地で開催されました。この排水機場は都谷川から矢落川へ毎秒18トン排水のできるもので、国土交通省大洲河川国道事務所は早期の完成を目指すとしています。

また、この日は肱川河川激甚災害対策特別緊急事業の堤防整備が完了したことを記念し、災害の記憶を継承するための「肱川治水碑」の除幕式も行われました。



気迫あふれる演武 空手道大会

今年で26回目を迎える大洲空手道大会が3月15日(日)、大洲市総合体育館で開催されました。この大会は、第3回全日本極真「型」空手道選手権大会の予選も兼ねていることから、県内はもとより関東や中・四国地方の幼年から壮年まで244人の選手が参加し、日頃の鍛錬の成果を披露しました。

大洲市から参加した清居茉央選手は「練習の成果を出し切って全国大会出場を目指してがんばります。おす押忍！」と力強く意気込みを語っていました。



防災や健康づくりを支える寄贈

3月13日(金)、愛媛たいき農業協同組合から寄贈されました。これは、昨年11月に同組合と締結した包括連携協定に基づくものです。防災毛布をはじめモルックやポッチャ用品などが市へ寄贈されました。

贈呈式では、田淵博幸組合長が「各地区における防災・減災に対する取り組みや、市民の健康増進につながればうれしい」とあいさつし、二宮市長からは感謝状を贈呈しました。



郵便局と連携し地域課題の解決へ

3月16日(月)、大洲市は日本郵便株式会社と包括連携協定を締結しました。協定には、「安心・安全な暮らしの実現」や「未来を担う子供の育成」など6項目が盛り込まれています。今後は、郵便ポストを活用した観光・防災情報の発信をはじめ、郵便局見学や職場体験を通じた子供の育成、地域の見守り活動など、具体的な取り組みが検討されます。

また同日、南予地区郵便局長会から防災物品(LEDランタン)の寄贈があり、二宮市長が感謝状を贈呈しました。

土砂災害に備えハザードマップ作成

国土交通省四国山地砂防事務所の協力のもと、平野地区において地区防災計画の見直しを行い、地すべりはじめとした土砂災害のリスクを反映したハザードマップを作成しました。見直しにあたっては、地区内の5行政区で避難訓練を実施し、避難経路や避難所など自らの避難行動を確認するとともに、地域でできる災害への備えについて話し合いが行われました。

平野地区自主防災組織の明後久利会長は、「今回の取り組みを生かし、地区全体に広げながら段階的に計画の見直しを進めたい」と話しました。



木の温もりを感じる明るい園舎が完成

建設を進めていた徳森こども園が完成し、3月18日(水)に落成式を行いました。徳森こども園は、通常の幼稚園・保育所機能に加え、現代の多様なニーズに応える認定こども園として、医療的ケア児の受け入れや、他のこども園などへの給食配送など、新たな機能が備わっています。

落成式では、二宮市長が「子供たちの笑顔とともに、地域にとって大切な場所になることを願う」と式辞を述べました。続いて、徳森保育所の年長児が和太鼓の演奏を披露し、会場を盛り上げました。

本施設は、令和8年4月から認定こども園として運用していきます。



桜と笑顔あふれる 上須戒さくらまつり

3月29日(日)、「第22回上須戒さくらまつり」が上須戒明玄ふれあい広場で開催されました。会場では、地域団体などによるバザーをはじめ、もちまきやお菓子まき、ジャグリングショーなど子供から大人まで楽しめる催しが行われました。

当日は満開の桜が広場を彩り、温かな春の陽気の中、多くの来場者でにぎわいました。訪れた人たちは、桜を眺めながら、春のひとときを満喫していました。



きりめき

ニュース

シリーズ

お知らせ

情報ひろば

図書館

未来を拓く

健康ナビ

相談・救急